

7 福島県新道路計画懇談会の議事要旨

第1回福島県新道路計画懇談会 議事要旨

(H14.5.16開催)

座長：	鈴木 浩	福島大学地域創造支援センター教授
委員：	伊藤 和	街こおりやま編集長
委員：	遠藤 輝男	双葉地方広域市町村圏組合消防本部消防長
委員：	大石 邦子	エッセイスト
委員：	酒井 勝治	(社)福島県トラック協会専務理事
委員：	坪井 孚夫	福島県商工会議所連合会会長
委員：	野崎 満	(社)福島県バス協会会長
委員：	星 明美	湯ノ上温泉組合女将の会会長
委員：	柳 恵子	白河市教育委員

は出席した委員

懇談会では、委員を中心に活発な意見が出されました。

各委員から出された主な意見は以下のとおり。

- 1 福島県の場合は、どこかに一極集中するのではなく、七つの生活圏それぞれの生活が成り立つように、生活圏の連携を大切にする必要がある。
- 2 道路そのもののネットワークと同時に、軌道系など他の交通機関との連携を考える必要がある。
- 3 歩行者に対し安全を提供することと、車を効率よく通すといったことを一つの道路の中で調整ができるよう道路そのものの水準を高めるべきである。
- 4 道路は地域社会を豊かにする、活気を持たせることにおいて大変重要なツールであるが、現実にはバイパスを造ってみたら中心市街地が空洞化したなどの現実がある。交通渋滞緩和のためのバイパス整備に対して、それ以外の目的が期待されて様々な開発行為が及んでいくこととなり、中心市街地における活力がそぎ落とされていくことが現象としてみられる。道路と地域社会のあり方をもう一度再考する必要がある。
- 5 道路整備の方針、道路建設あるいは維持管理も含めて県民の意見をいかに受け止め、反映させていくか、そのような仕組みづくりが重要である。
- 6 道路整備において、「一定の量的ストックは満たされた」という基本政策部会中村部会長の認識に対しては同意できない。
- 7 一極集中、都会中心など、人が集中して住んでいる地域だけが中心になって、都会中心の政策が進められていいものか疑問に思う。
- 8 行政改革や民営化の中で、採算の合わない地方の公共機関の乗り物は切り捨てられていく、そのような中では車しか頼るものがない。
- 9 少人数でも人が住んでいる限り、国民の権利を確保するために道は通さねばならない。
- 10 原発等における有事の際に、危機管理体制が速やかに機能するように道路の整備をすべきである。これは、県の役割でもあるし、国の責務でもある。
- 11 トラックを走らせれば、福島県内においては道が狭く、走りにくい場所がまだまだたくさんある。
- 12 高速道路に乗らないで、一般道で十分走れるといった県もあるが、福島県は面積が広大なために、まだまだ道路の整備が必要である。特に中通りから浜通りに至る道路の整備が必要である。

懇談会では、委員を中心に活発な意見が出されました。

各委員から出された主な意見は以下のとおり。

- 13 南会津は素晴らしい観光資源があり、首都圏の方々に認識もいただいているにもかかわらず、その活かす道路が不足している。栃木西部・会津南道路などの計画を実現していただきたい。
- 14 国道 118 号は迂回路がないため、冬期間の積雪等で大変苦勞することから、これと並行する路線の整備が必要である。
- 15 南会津にある観光施設までの道路が整備されていないため、渋滞が発生するなど、リピーターを確保するためにも道路の整備が必要である。
- 16 周辺の景観と調和した道路の整備を図る必要がある。
- 17 生活を支えるための道路の充実を図る必要がある。
- 18 道路の整備、管理にあたっては、現在の縦割り行政の中で行うのではなくて、道路を实际使う利用者の立場に立って横断的に行うべきである。
- 19 道づくりに関しては、県民、市民の声をよく聞き、ともにつくるという観点から行政を行うべきである。
- 20 高齢化が顕著であるため、今後は、維持管理を重視して道路行政を展開すべきである。
- 21 車と自転車と歩行者が混在し、大変危険な状況が見受けられるため、歩道の整備は積極的に図るべきである。
- 22 道路によって管理者が違うため、例えば除雪の際に、他の管理者の道路を走行するにもかかわらず除雪しないなど、無駄が多いように思われる。
- 23 道路の掘り起こしについては、時期的に合わせるなど効率的に実施していただきたい。年度末に集中するのも問題である。
- 24 電柱を地中化し、誰でも安心して通れるような道路をつくっていただきたい。
- 25 救急業務は時間との戦いで、時間によって人の生命が左右される。救急業務における交通の手段としては、自動車しかないため、人の生命の大部分は道路に依存している。
- 26 会津の奥地は冬期間の凍結のため、医療機関への搬送時間がかかることから、人口が少ない、交通量が少ないだけで道路はいらぬという判断は納得できない。会津の奥地にも高速で走れる道路を整備していただきたい。
- 27 矢祭町、埴町、棚倉町など東白川地方には、高速で走れる道路を整備していただきたい。
- 28 福島県は、車に依存しなければならないため、道路が必要だと言うことはわかるが、3ナンバーの車に一人で乗って通勤しているなど、過大な交通需要に繋がっていることから車の使い方なども少し考えるべきである。
- 29 郊外に大型店舗ができ、中心市街地が空洞化している。いわゆる街の真ん中で生活しているにもかかわらず、車を所有していなければ何もできない状況となっている。なるべく車に頼らずに生活できる環境を整備すべきである。
- 30 福島県は、非常に広大な県であるため、地域間の連携を高めることは必要であり、地域連携軸を確保する道路の整備は非常に重要である。
- 31 一方、各生活圏の中においては、ある程度の生活要求が満たせるような施設、機能などのサービスを用意し、その中で道路交通のトリップについては、移動距離を短くする、安全安心のためメリハリのきいた仕組みなどを用意していく必要がある。つまり、生活圏の中では、それぞれの都市をコンパクトにして、その中で交通行政のあり方や生活の利便の提供を図ることが重要である。
- 32 このように、あらゆる場所に同水準の道路をつくるのではなく、それぞれの道路が担う役割を明確にしたうえで、道路づくりを図らなければならない。

第2回福島県新道路計画懇談会 議事要旨

(H14.7.12開催)

座長：	鈴木 浩	福島大学地域創造支援センター教授
委員：	伊藤 和	街こおりやま編集長
委員：	遠藤 輝男	双葉地方広域市町村圏組合消防本部消防長
委員：	大石 邦子	エッセイスト
委員：	酒井 勝治	(社)福島県トラック協会専務理事
委員：	坪井 孚夫	福島県商工会議所連合会会長
委員：	野崎 満	(社)福島県バス協会会長
委員：	星 明美	湯ノ上温泉組合女将の会会長
委員：	柳 恵子	白河市教育委員

は出席した委員

懇談会では、委員を中心に活発な意見が出されました。

各委員から出された主な意見は以下のとおり。

- 1 本計画には、福島県の独自性をもたせる必要がある。
- 2 県土のランドデザインに立った計画的な事業の展開としては、非常に広範囲な内容であるため、具体的な説明が必要である。
- 3 量から質への転換を図ることとしているが、県としては、道路整備に関して一定の量は満たされたのかどうかの認識を示す必要がある。
- 4 アドプトシステムの導入やボランティア団体との連携、さらにはアウトソーシング(外部委託)の推進などは基本的な考え方に加えるべきである。
- 5 道路整備の目的が、供用時にその目的と違った性格で供用されている気がする。その矛盾を解決するためにも、交通管理者との連携を図り、供用後の交通規制を含めて建設主体が考えるなど、いわゆる総合的なマネジメントを考慮した道づくりを進める必要がある。
- 6 福島県がこれから住みよく発展するためにも、道路の整備は必要である。道路の整備にあたっては常に地域発展という視点を持つべきである。
- 7 福島県の道路の現状認識、それを踏まえた道路整備の方向性はしっかり示す必要がある。
- 8 台風6号の被災状況を見ても、福島県にはまだまだ道路の整備が必要な箇所が存在する。つまり有事の際の避難路も含めて、最低限、県民の生命、財産を守る道路の整備は必要である。
- 9 福島県の道路は圧倒的に歩道が少ない。歩道の整備を優先的に考えるべきである。
- 10 中心都市間を結ぶ途中の集落には、歩道が少ないように感じる。それら地域の沿道にも学校があり、生徒が非常に危険な状況が見られるため、学校周辺の道路には是非とも歩道の整備をすべきである。
- 11 原子力発電所の有事の際の避難路として、高速道路、国道、県道等は地域住民が期待するような道路の整備が行われていない。
- 12 30年たっても国・県への道路整備の要望内容が変わらないことを見ても、まだまだ道路の整備は必要である。
- 13 物流の観点から、大型車が支障なく通行できる道路として見た場合、すべての道路が駄目であるというわけではないが、まだまだ問題箇所がある。幹線道路の役割を担っている道路も問題が多いし、大型車のすれ違いに支障がある箇所も多く存在している。

懇談会では、委員を中心に活発な意見が出されました。

各委員から出された主な意見は以下のとおり。

- 14 道路特定財源の一部を軽油引取税で負担している立場からすれば、道路特定財源の一部を一般財源化するというのであれば、減税してもらうのが原則である。
- 15 福島県は、港湾と連結する道路の整備が低い。特に小名浜港と連携をする道路について早急に整備する必要がある。
- 16 本計画の中では、優先順位(プライオリティ)の考え方をもっと示す必要がある。

- 17 道路整備の基本的な考え方と基本方針の繋がりが見えない。
- 18 アウトカム・アウトプット指標をもっとわかりやすい言葉で示すべきである。
- 19 アウトカム・アウトプット指標については、県民が容易にチェックをできるようなわかりやすい指標とすべきである。
- 20 これからの道路整備にあたっては、安全、安心ということを念頭に置いて行うべきである。本計画のなかでも基本的な考え方に取り込むべきである。
- 21 道路を安全にするということは当然であり、それ以外にも土地利用を含めた地域環境を考慮した道路整備を行うべきである。

第3回福島県新道路計画懇談会 議事要旨

(H14.11.8開催)

座長：	鈴木 浩	福島大学地域創造支援センター教授
委員：	伊藤 和	街こおりやま編集長
委員：	遠藤 輝男	双葉地方広域市町村圏組合消防本部消防長
委員：	大石 邦子	エッセイスト
委員：	酒井 勝治	(社)福島県トラック協会専務理事
委員：	坪井 孚夫	福島県商工会議所連合会会長
委員：	野崎 満	(社)福島県バス協会会長
委員：	星 明美	湯ノ上温泉組合女将の会会長
委員：	柳 恵子	白河市教育委員

は出席した委員

懇談会では、委員を中心に活発な意見が出されました。

各委員から出された主な意見は以下のとおり。

- 1 事業毎の評価に加えて、本計画についても評価（目標達成度の確認）を行う必要がある。
- 2 道路工事について、何故遅れているのかというような情報が県民になかなか入らないため、例えば工事現場に進捗状況を提示すれば、工事への理解度も高まるのではないかと。
- 3 国・県・市町村の各道路管理者が、定期的に一堂に交いして意見を交換する場を今以上に設ければ、さらなる連携強化に繋がるのではないかと。
- 4 公共交通機関との連携については、オムニバスタウン構想があり、全国で10箇所以上の都市が認定されているが、福島県においてもこの構想を認定し、街づくりの一環として展開していただきたい。
- 5 公共交通機関との連携については、道路行政と交通行政、さらには都市計画行政をうまく連携させなければならない。
- 6 例えば広域的な都市の中では、鉄道と抱き合わせて土地利用計画を立てるなど、交通行政と都市計画行政を密に連携させなければならない。
- 7 本県の免許取得人口の高さを見ても、それだけ車に依存しなければ生きていけない地域であると認識している。
- 8 道路行政も、地域の活性化と合わせて進めていく必要がある。
- 9 本計画をどれだけ実現化させるかがポイントとなってくる。いわゆる実行力をどう担保するかが、本計画に求められることである。
- 10 今後の道路行政については、できる範囲で計画の見直しやコスト削減を行い、必要な箇所から重点的にかつスピーディーに事業を展開していく必要がある。
- 11 実施計画（道路整備に関するプログラム）を盛り込む際には、実施後の説明責任が果たせるような計画を策定するなど、確実に進めていくプロセス・内容を提示する必要がある。
- 12 福島県はもっと道路をつくるべきである。国に大いに発信して予算を確保し、本県の道路をよくしていただきたい。
- 13 新しい道路をつくることも大切であるが、既存道路を改良するなど積極的に有効活用を図るべきである。

懇談会では、委員を中心に活発な意見が出されました。

各委員から出された主な意見は以下のとおり。

- 14 交通安全などを呼びかける信号機上の電光掲示板は常時同じであるため、ドライバーの気がとられて危険なことも多々あることから、緊急時の災害情報や、渋滞情報を流すなど工夫していただきたい。
- 15 市町村においても、住民の意見を聞きながら、道路計画や実施計画をつくっていただきたい。
- 16 21世紀は民の時代でもあるため、県民の意見が反映できるような道路行政を展開していただきたい。
- 17 生活区域ではなるべく車を通さない工夫をするなど、あらゆる人が安心して、子供が安全に遊べる道路づくりを考えていただきたい。
- 18 例えば道路の4車線化などの実施段階で、我々県民の意見がそれぞれの地域、立場でどのように吸収されるのか、それらのプロセスにも配慮しながら道路の整備を進めていただきたい。